

大阪市中央公会堂



鳳凰と大阪市の市章「滯漂（みおつくし）」がデザインされたステンドグラス



大理石が贅沢に使われた内装

大阪市中之島のシンボルともいわれる、大阪市中央公会堂。

この建物の建設に深く関わったのが、「義侠の相場師」といわれた株式仲買人、岩本栄之助だ。

栄之助は、明治42年（1909年）に渡米した際、当地の富豪が慈善事業や公共事業に財産を投じる姿に、深い感銘を受けた。そこで自らも、大阪市民の文化醸成のために、公会堂の建設を決意し、100万円（現在の貨幣価値で数十億円）を大阪市に寄付した。

大阪市は、中央公会堂建設のための財団を立ち上げ、大正元年（19

12年）に設計コンテストを開催。

当時29歳の早稲田大学講師だった岡田信一郎の案が、一席に選ばれる。

その設計を元に、当時の日本建築界の第一人者である辰野金吾と、共同で大阪に建築事務所を開いていた片岡安により実施設計がなされ、建設が開始された。

大正7年に中央公会堂は完成する。しかし一番の功労者ともいえる栄之助は、その2年前、株式相場の暴騰により莫大な損失を出し、自死の道を選んでいった。「寄付した分を返して貰えば」と勧める周囲に、「そんなことをいうのは大阪商人の恥だ」

と拒否していたという。

完成以降、長く大阪の文化拠点とされた中央公会堂も、老朽化により取り壊しが取り沙汰された。

しかし昭和63年（1988年）、大阪市は市民の要望に応え、中央公会堂の「永久保存」を決定する。そして平成11年（1999年）から保存・再生工事が始められ、平成14年に完成した。

戦時中の金属供出で失われていた、屋根上の「メルキュールとミネルバ像」も60年ぶりに復活。油絵の天井画や、ステンドグラスも完成当時の輝きを取り戻している。



DATA

名称 大阪市中央公会堂
所在地 大阪市北区中之島1丁目1番27号
完成 大正7年
設計者 原案 岡田信一郎
実施設計 辰野金吾・片岡安



屋根には、復活した商業の神メルキュール（左）と、科学、工芸、平和の神ミネルバの像が



特別室の天井には「天地開闢」の場面が油絵で描かれている

